

プロジェクト「福島の子どもたちへ」



まず取組の発端は、5月の大学院授業（看護学研究科）でした。

大学院生（写真）たちが、被災地に向けてできることは何かを議論し、方向性が決まりました。「福島の子どもたちに九州の新鮮な野菜を送ろう！」 野菜は、季節を考え、サツマイモにすることにしました。



「福岡県立大学と共に歩む会」の方のご紹介で、農家の方を紹介いただきました。農家の方から、写真にある2畝半のサツマイモ畑を借りることができ、6月18日に芋苗植えを行いました。写真は学生サークル「どうぶつの森」のメンバーと、看護学部教員の家族です。



芋苗植えには、学生の他に、地域の青年、そして卒業生も駆けつけてくれました。写真左には、農地を貸していただいている農家のご夫婦が写っています。



収穫に至る途中で雑草を抜く作業を行いました。
雨上がりのせいか、土がやわらかく、雑草も抜きやすい日でした。



長期保存が可能といわれる霜の降る前に（11/16）、芋掘りを行いました。
力作業でしたので、学生サークル「スコップランド」の男子も駆けつけてくれました。



わたしたちは素人集団でしたので、多くの芋を掘る途中で傷つけてしまいました。
写真は学生と教員ですが、掘った芋を一旦袋に入れるために分別しているところです。



送料は、チャリティーイベントにて募りました。福岡県立大学周辺安全対策検討委員会主催のソフトボール大会に趣旨を説明して快くカンパをいただくことができました。田川警察署チーム、田川市役所チーム、伊田校区住民チーム、県立大学と共に歩む会チーム、そして福岡県立大学チームの方々です。



掘った芋は、甘味を出すために1週間ほど雨のあたらない場所においておくとよいそうです。農地を貸していただいた農家の方のお宅にお邪魔して、大きなハウスの中で芋をおかせていただくことにしました。写真は、発送のために大学に芋を運ぶ作業に来ている学生と、地域の青年と、そして農家の方です。



大学に持ってきた芋をいよいよ箱詰めする段階です。ここでも学生サークル「どうぶつの森」が活躍してくれました。写真はサークルの学生と看護学部教員4名です。



箱詰め（12/6）をしている写真です。天候に恵まれ、穏やかな日差しの中、心を込めて、福島の子どもたちに思いをはせながら、パッキングしていきました。



明朝の発送に備え、研究室前に 11 箱（約 100～150 キロ程度だと思います）の箱を持ってきました。



12月7日、佐川急便で発送されることになりました。ドライバーの中田さんが最初のバトンを受け取ってくださいました。無事に福島に届きますように。



12月7日、お昼前にサツマイモは長い旅路につきました。
福島子どもたちへの思いを乗せながら。
ありがとうございました。

以上、プロジェクト「福島子どもたちへ」について簡単な経緯をご説明させていただきました。松浦賢長